



橋北中学校だより

令和7年10月3日(金)

第6号 文責:奥田

津市立橋北中学校

令和7年度「全国学力・学習状況調査」、「みえスタディ・チェック」結果報告

4月17日(木)に3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」、4月21日(月)及び5月16日(金)に1、2年生を対象に実施された「みえスタディ・チェック」の結果及び分析を報告いたします。

1年	国語	数学	理科
本校	大きく上回る	上回る	上回る
県	55.6	59.9	55.1

2年	国語	数学	理科
本校	大きく上回る	大きく上回る	上回る
県	50.5	52.3	44.9

3年	国語	数学	理科
本校	上回る	大きく上回る	同じくらい
県	53.0	47.0	49.8
国	54.3	48.3	50.3

※県の平均に対し、平均正答率が5ポイント以上の時は「大きく上回る」、5ポイント未満の時は「上回る」と表示しています。

※理科は正答数に基づいた判断よりも、各項目の難易度や識別能力を考慮し、より精密な評価を行うための数値としてIRTスコアを利用しています。

【国語】

強み	どの問題に対しても、県平均よりも解答率がよかった。登場人物の性格について読み取ることができる。
弱み対策	「自分の考えとそのように考えた理由を書く」という問題に課題が見られる。 自分の考えや思いを書くような作文を書く取り組みを増やす。進路に向けて、自らの志願理由を伝えられるようにする。

【数学】

強み	「数と式」は、事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげる問題、「図形」は、三角形の外角を求める問題、証明を振り返り新たに分かることを選ぶ問題、「関数」は読み取って距離を求める問題、「データの活用」は確率を求める問題がよくできていた。
弱み対策	平行四辺形を使った証明問題では、無回答の生徒が多く、証明を順序だてて説明していくことができなかった。 証明の方法や順序だてて考え、自分の言葉で表すということを授業の取り組みの中に増やしていく。

【理科】

強み	知識を問う問題に対して、よくできている。他者が発表した内容に対して振り返りを記述する問題ができていた。
弱み対策	身のまわりの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための問題。元素記号を書く問題についてできていなかった。問題文から順序立てをして、正確に情報を整理する力が乏しい。実験回数を増やし、実験をする際にも予想を立てて、実験をし、結果を検証するような時間を増やしたい。 身のまわりの事象から生じた疑問や問題を解決するための課題を設定できるようなレポートづくりを心掛ける。

「全国学力・学習状況調査」の「生徒質問紙」から

3年生を対象とした学調における「生徒質問紙」の結果から、本校生徒の傾向が見えてきました。「生活習慣や学習習慣」に関する項目では、「あてはまる」「ややあてはまる」といった肯定的な回答が全国平均を上回る、または同程度の高い数値を示しており、特に家庭学習に関する質問では、平日・土日ともに学習時間が全国平均より長く、家庭学習がしっかりと定着している様子がうかがえます。



一方で、本校が課題として取り組んできた「自己肯定感」や「自己有用感」に関する項目——「自分にはよいところがありますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」など——については、昨年度は全国・県平均を上回る結果でしたが、今年度は「当てはまる」という回答は多いものの、「どちらかといえば当てはまる」を含めると平均を下回る結果となりました。依然、周りの仲間と自分を比較し、なかなか自分に自信が持てないでいる状況がみられるのではないのでしょうか。今後も、教科の授業での学び合いや探究的な学習、地域活動などを通して、一人一人が自分の良さに気づけるような取り組みを続けていきます。あわせて、私たち教員が、生徒の努力の目的や意義をしっかりと伝え、そのがんばりに対して適切な声かけを行い、勇気づけていくことが大切だと考えています。

また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という項目では、今年度の肯定的な回答が昨年度より 2.1 ポイント上昇し、95.1%となりました。高い数値ではありますが、全国・県平均には届きませんでした。しかし、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という項目では、肯定的な回答が 1.4 ポイント上昇し、全国平均を上回る結果となりました。昨年度から始まった上ノ村での稲作を起点とした探究的な学習を通して、地域や社会をよりよくしていこうとする意識が育まれてきたのではないのでしょうか。実際、3年生は修学旅行での学びを地域に引き戻し、「自分たちの地域をよりよくしたい」と行動に移



す姿が多く見られています。先日も生徒たちの提案で海岸清掃を実施しました。地域や社会のために自分たちができることを考え、計画し、仲間を巻き込み実行していく姿に感心しました。



今年度も、生徒同士が聴き合い、学び合う授業の充実を目指して日々の教育活動を進めています。さらに、自ら課題を設定し、その解決に向けて探究的に学ぶことで、社会に積極的に参画しようとする態度を育む機会も設けています。これら一つ一つの活動が、生徒の自己肯定感や自己有用感を育むとともに、自らの可能性を発揮し、他者と協働しながら未来を創る力につながっていくことを願っています。